



ちよっ

と

# よろしいですか！

2007年 6月 Vol.1

What's  
New?

## 茅ヶ崎市下寺尾の県所管産廃最終処分場で 180倍超すダイオキシン類検出!

寒川町の「不二倉業」が経営する最終処分場で、ばいじんや燃え殻をコンクリートで固形化し埋め立てていたところで、環境基準の180倍を超えるダイオキシンが観測井戸から検出されました。「ダイオキシン類対策特別措置法」では、年1回調査の義務はあっても、県に報告の義務はありませんでした。

不二倉業は、2年前産廃処理を無許可業者に委託していて県警に摘発され、今は、操業はしておらず、管理をしていました。近隣の井戸は飲用には使われておらず、県は自治会に報告と、井戸の飲用注意の回覧板はまわしたとのことです。

私とくさか景子スタッフは、早速現地調査をしましたが、すでに処分場は草や木がはえて小山になっており、長い年月の末、有害物質が流れ出たのだと感じました。隣には、北陽中学校もあり、飲用には使わないとはいえ、農業用には使うのではと心配されます。県は、原因調査と対策を行うとのことですが、1ヶ月以上かかります。県内には、34施設あり、そのうち茅ヶ崎には9施設もあります。今後、適切な管理と監視が求められます。対策として、県には、

今後、報告の義務化と周辺の業者への調査、市とも連携して、早期対策と情報公開を望むことを要望しました。それにしても、ダイオキシン類はすぐ、影響が現れず、長い年月を経て、いろいろと影響を及ぼしてくるので、問題です。

ダイオキシンが観測された井戸の前で





NPO 法人子ども未来じゅく

「子ども未来センター」を見学して No.1

日本の合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に産む子どもの数)は、1.26 となり、ますます少子化が進んでいます。フランスでは、近年合計特殊出生率は2.0を超え、ヨーロッパのトップになっています。妊娠、出産、育児に対する助成金の充実、こどものいる女性の就労をサポートするシステムの発達など少子化歯止め政策がすすんでいるからです。日本は、女性の不安定な働き方、低賃金に加え、安心して子どもを産む場所も不足し、産んでも保育園まちなどの環境整備が大変遅れています。

私は、NPO 法人で初めて認可をとった、厚木市の小規模認可保育園 VIVI を見学しました。ざりがにやおたまじゃくしとりのお散歩から帰り、食の安全にこだわる給食の時間におじゃまし、元気な子どもたちと会いました。子ども未来センターは他にも一時あずかり室、障がい児保育室、学童保育、外国籍の子どもたちのための多文化子どもセンターがあり、人として大切に育てられるこどものための複合施設でした。

日本の保育行政は、税金をふんだんに使う公の認可保育園が中心で、認可に入れないこどもは認可まちをし、保育料の高いその他の施設に入ります。同じ税金を払っているのに、非常に不公平です。ましてや今は、認可の保育料を滞納している人までいます。近年、高齢者福祉では、介護の社会化「介護保険」ができていますが、子育ての社会化はすすまず、格差がひろがっています。こども政策では、日本の制度は遅れ、このままでは残念ながら、少子化の回復は望めそうにないと思います。



保育園の子どもたちと

## くさか景子のホッとコラム

『300日問題』に思う

「離婚後 300 日以内に生まれた子は、実父ではなく母の前夫の戸籍に入れなくてはいけない」このため母親がこどもの出生届を出さないケースがあるといいます。その後医師の証明があれば実父の子と届け出ができるようになったことは、一歩前進ではありますが、しかし、そもそも日本の場合子どもを産むには家を必要とします。

先進国フランスでは出生届も国籍や父の認知と関係なく、受けつけられます。出生は家族を超えた社会的な認知であり、生まれたこどもが生存に必要な諸権利を獲得します。

日本でもこどもは社会の宝といいながら、こどもの権利が守られない制度は見直す必要があると思います。